「強権に屈しない」

高江着陸帯座り込み8年　報告会で決意

【東】米軍北部訓練場の東村高江地区のヘリコプター着陸帯建設に反対するヘリパッドいらない住民の会は28日、村農民研修施設で座り込み8周年報告会を開いた。住民や支援者ら約500人が参加した。沖縄防衛局が7月に着陸帯の工事を再開する動きがあることから、参加者はやんばるの自然と住民生活を守る決意を新たにした。

ヘリパッド建設を阻止するため、ガンバロー三唱で気勢を上げる参加者ら＝28日、東村農村研修施設

ヘリパッド建設に反対する現地行動連絡会の仲村渠政彦氏は、北部訓練場の過半の返還前にN4地区の着陸帯が運用されたことを「負担軽減を求める声を歯牙にもかけない」と批判した。日米共同使用となっている県道70号の路側帯を米軍専用に変更し、住民の反対運動を抑制する動きがあることも説明し「生活と表現の自由を奪い、民主主義をないがしろにする政府の強権に決して屈しない」と述べた。

大宜味村憲法九条を守る会の平良啓子会長、沖縄平和市民連絡会の上間芳子氏、ヘリ基地反対協議会の仲本興真事務局次長、沖縄平和運動センターの大城悟事務局長、仲嶺眞文東村議、東村島ぐるみ会議準備会の當山全伸氏も登壇した。全ての登壇者が高江の着陸帯建設と米軍普天間飛行場の名護市辺野古移設を推し進める政府の強硬姿勢を問題視した。その上で、憲法で保障された平和な生活と自然を守る高江と辺野古の闘いが全国にも共感を広げているとして、運動の現場で連帯を強めていく思いを述べた。

「砂川闘争」と思い一つ

宮岡さんの娘・福島さん

ゲート前の市民ら激励

「砂川闘争」に参加した父・宮岡政雄さんの思いを語り、座り込みを行う市民らを激励する宮岡さんの娘・福島京子さん＝28日、名護市辺野古

【辺野古問題取材班】米軍立川基地（東京）の滑走路拡張計画に反発した住民らが政府側と対立し、最終的に拡張を中止させた「砂川闘争」の中心人物だった宮岡政雄さんの娘・福島京子さん（65）＝東京都＝が米軍キャンプ・シュワブゲート前を訪れた。福島さんは「父は『砂川闘争は沖縄で闘っている人たちにもつながる闘いだ』と言っていた。ゲート前の行動や参加者の思いを全国民で共有しないといけない」と激励した。

「砂川闘争」では1955年、米軍立川基地の滑走路拡張計画を進める政府側と住民が激しく対立した。57年、基地内の農地強制収用のための測量に反対するデモ隊が柵を押し倒して中に入り、7人が起訴された。東京地裁判決では「米軍駐留は戦力に当たり憲法違反」と判断し全員無罪とした。その後、基地は68年に拡張中止、77年に返還された。

福島さんは「『砂川闘争』は基地拡張を阻止することができた。だが、東京では横田基地にオスプレイの配備が進められている。危険なオスプレイの飛行反対に向けて東京でも闘っていきたい」と言葉に力を込めた。